

平成29年度 支え合うきよせ委員会 第4回
(清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体) 会議録

- 1 開催日時 平成30年2月21日(水) 午後1時30分から午後2時45分
- 2 開催場所 コミュニティプラザひまわり 会議室4
- 3 出席者 平成29年度第4回支え合うきよせ委員会 出欠席名簿の通り

4 次第

(1) 開会・挨拶

(2) 配布資料の確認

次第

- ・ 資料1 平成29年度 支え合うきよせ委員会 第3回会議録(案)
- ・ 資料2 平成29年度 地域資源・ニーズ把握部会 第8回記録
- ・ 資料3 平成29年度 地域資源・ニーズ把握部会 第9回記録
- ・ 資料4 平成29年度 地域資源・ニーズ把握部会 第10回記録
- ・ 資料5 平成29年度 支え合いバックアップ部会 第7回記録
- ・ 資料6 平成29年度 支え合いバックアップ部会 第8回記録
- ・ 資料7 平成29年度 支え合いバックアップ部会 第9回記録
- ・ 資料8 平成30年度 支え合うきよせ委員会構成
- ・ 資料9 支え合うきよせ委員会 スケジュール(平成30年度)
- ・ 資料10 平成29年度 「支え合うきよせ委員会」の活動を振り返って

(3) 報告

ア 前回本会議事録

事務局より、資料1について報告があり、承認。

イ 各部会報告・意見交換

① 地域資源・ニーズ把握部会(A部会)

内田部会長より、資料2、3、4、10を用いてA部会の議論の経過と状況について報告。

◆地域団体等との意見交換会

- ・ 意見交換会において地域の課題をまとめ、整理。今後は団体に対して回答を配布し、フィードバックを実施予定。なお、回答については冊子化し、次年度に活かしていく。
- ・ 今年度4つの地域で開催した意見交換会では33名の地域住民が参加し、支え合うきよせ委員会の委員を合わせると約50名の参加。
- ・ 次年度は6～8カ所で意見交換会の開催を検討。

◆支え合い情報ファイル・ノート

- ・ これまでに支え合い情報ファイル・ノートは地域団体などに配布済み。

- ・当初配布した 100 部では足りず、支え合い情報ファイルが欲しいという声があり、支え合い情報ファイルの増刷や更新が今後の課題となっている。ファイルを容易に作成することができるよう、情報を電子化し、①市や社協の HP でリンクを貼る、②ファイルを保存した DVD を用意する、③クラウドサービスを活用する、等の方法を検討していきたい。

◆B 部会との連携

- ・A 部会の役割は地域資源やニーズを把握することだが、支え合いのバックアップにつながる活動も一部行っている。全体で取り組む必要がある際には部会の枠にとらわれず、B 部会と二人三脚で取り組むことができるよう連携し、情報交換をこまめに行っていきたい。

◆人材育成

- ・ボランティアの拡大や育成は今後の課題。数値的なことでいえば、人口の 5% を確保できれば支え合いづくりが進むといわれており、1 つの参考値となるのではないか。

② 支え合いバックアップ部会（B 部会）

柳原部会長より、B 部会及び生活支援コーディネーターの取り組みの現状と課題について生活支援コーディネーターから報告するよう要望あり。各生活支援コーディネーターより報告。

◆森生活支援コーディネーター

- ・空き家を活用した居場所づくりを行っている他自治体（三鷹市、世田谷区、武蔵村山市）の事例を視察。
- ・ゲーム感覚で支え合いの大切さを実感することのできる支え合い体験会の実施を B 部会で検討。
- ・経済状況や思いが各自自治体によって異なるため、思いなどが近い自治体を参考にし、2 層や 1 層の生活支援コーディネーター、清瀬市と情報共有をしながら進めていきたい。

◆原田生活支援コーディネーター

- ・各老人クラブ、自治会長を訪問し、信頼関係の構築につとめている。活動への参加やご挨拶を通じて、活動の魅力や頑張っていること、困りごとをお聞きすることができるようになってきている。
- ・同じ拠点を使っているが、団体同士の交流や接点がない状況が見えてきた。来年度は同じ拠点を使っている団体間の関係づくりを重点的に行いたい。一方で、コーディネーターとして関係づくりをどこまで行えばいいかが課題。手伝うだけの関係ではなく、どこまで入り込んでいけばいいかを模索していく。

◆鍵和田生活支援コーディネーター

- ・部会同士で似たような取り組みを行っている現状があり、部会構成については見直しが必要な点もある。
- ・生活支援コーディネーターは、A 部会で作成した支え合い情報ファイルや

ノートを地域の団体などにお配りすることを通じて、関係性づくりを進めている。支え合いの取り組みの必要性を周知し続け、その良さがわかると、「できることやってみようか」「課題があるけどどうにかしたい」と地域の方から教えてもらえるようになってきている。そこで出てきた課題をどう仕組化していくかについて、A部会やB部会で議論を行っていきたい。

(4) 議題

ア 平成30年度支え合うきよせ委員会構成（案）

事務局より、資料8を用いて来年度の本会と各部会の検討内容について提案があった後、全体で意見交換を実施。

① 2層協議体について

- ・来年度中に第2層生活支援コーディネーターの圏域ごとに協議体を立ち上げ、計3か所の2層協議体を設立予定。
- ・立ち上げの時期については地域によって異なると考えられるため、具体的なスケジュールについては来年度5月に開催する初回の本会において事務局より提案する。
- ・他自治体においては2層協議体が設立されている例もあるため、本会で情報共有を図っていく。

② 支え合いの拠点確保について

- ・旭が丘団地の空き店舗を活用した居場所づくりについては、URとの調整を始めたのが11月頃であったこともあり、財政当局への説明が不十分であった。市の予算を活用した拠点確保については、平成30年度に準備を進めていくが、実現は平成31年度以降となる見込み。ただし、自宅を提供していいという市民がいた場合や民間企業等の助成金を活用する場合には、平成30年度中に拠点確保ができる場合も考えられる。
- ・拠点については、場所や機能などの基本構想を定めて方針を決定していく必要がある。公共施設の整備については、来年度の5月以降に市全体で検討に入る予定である。

③ 部会体制について

- ・来年度5月に開催する初回の本会に向けて、部会の再編が必要か全体で意見交換を行う。部会再編案については以下の通り。

<テーマ別設置案>

- ・A・Bの両部会を調査、研修、企画、広報の4つ部会に再編し、それぞれのテーマについて議論を行う。

<圏域別設置案>

- ・生活支援コーディネーター圏域ごとに3つの部会に再編し、意見交換会や支え合い体験会などを圏域ごとに開催することで2層協議体立上げを目指していく。
- ・部会体制を維持する点については反対意見なし。部会同士の情報共有を

行うなど、お互いに連携を深め、良いところは継続し、悪いところは修正していく。

- ・部会の取り組みについては、両部会の連携が課題となっている。どのように連携できるか、2層協議体との兼ね合い等、引き続き議論を行っていく。

イ 平成30年度スケジュール（案）

事務局より、資料9を用いて来年度の本会と各部会のスケジュールについて提案があり、了承される。

(5) その他

ア 次回開催日 平成30年5月10日（木）13:30～15:30
コミュニティプラザひまわり 3階 第3会議室

(6) 閉会